

豊かな地域と安全を確保する
ダム再生事業



近年、毎年のように発生する洪水・渇水被害や気候変動の影響の顕在化から、今後の水害の頻発化・激甚化が懸念されています。国土交通省では、平成29年6月に策定した「ダム再生ビジョン」を踏まえ、既設ダムを運用しながら最大限に活用するソフト・ハード対策（賢く柔軟な運用×賢く整備）の推進に取り組んでいます。戦略的・計画的に進め、治水・利水両面にわたる効果を早期に発揮させます。

大淀川において既往最大の平成17年9月洪水と同規模の洪水を安全に流下させるため、岩瀬ダム（既設）の洪水調節機能を増強することが必要となります。今後は、関係機関等と調整を図りながら、調査・検討の上、諸元等の詳細について決定し、必要な対策を実施します。



平成17年	9月	台風14号による洪水で、基本高水のピーク流量を上回る洪水が発生
平成28年	7月	「大淀川水系河川整備基本方針」変更策定（H28. 7. 14）
平成30年	6月	「大淀川水系河川整備計画」変更策定（H30. 6. 29）
平成31年	4月	再生事業実施計画調査に着手

岩瀬ダムの概要

Dam

岩瀬ダムは、大淀川水系岩瀬川の下流、都城市(右岸)と小林市(左岸)にまたがるところに位置しています。大淀川下流の治水軽減(治水)と発電(利水)を目的とし昭和42年7月に完成しました。

管理開始から約53年が経過し宮崎県にて管理されています。

【岩瀬ダム諸元】

※()は再生前の諸元

形式:重力式コンクリートダム
ダム高:55.5m
堤頂長:155.0m

総貯水容量 :5,700m³
有効貯水容量 :5,000万m³ (4,100万m³)
集水面積 :354km²

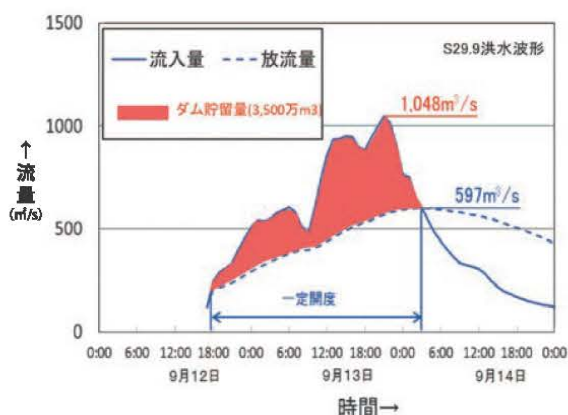
岩瀬ダム再生事業の概要

Dam

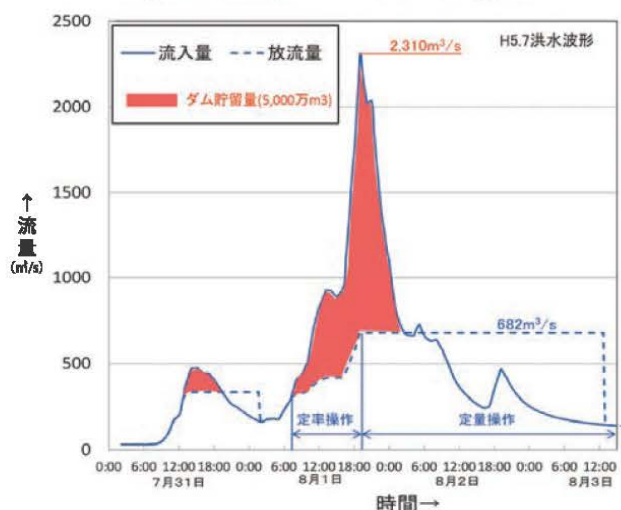
■事業内容 : 岩瀬ダム(既設)の発電容量及び死水容量を洪水調節容量に振り替えることで、現況の洪水調節容量を約3,500万m³から約5,000万m³に増大させ、放流設備の増設を行うことにより、治水機能の向上を図ります。

岩瀬ダム再生事業イメージ

現計画：現行操作

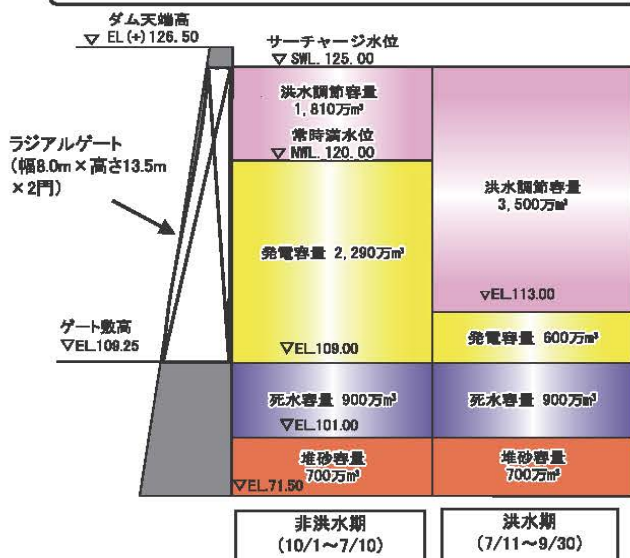


整備計画目標：ダム再生後操作



貯水池容量配分図のイメージ

現行



再生後

